

☑平成 30 年度 事務事業評価(平成29年度実施事業事後評価)シート / 平成 31 年度 実施計画調書 (新規 拡充 縮小 休止・廃止 現状維持)

1 事務事業の基本情報 ☞ 位置付けられている計画等で『その他の計画』が複数ある場合は、代表的なものを1つ記入してください。また、該当する根拠法令及び市条例等が複数ある場合、代表的なものを1～2個記入してください。													
事務事業名	商店街活性化経費			補助区分	<input type="checkbox"/> 国補 <input checked="" type="checkbox"/> 県補 <input checked="" type="checkbox"/> 市単	終期	<input type="checkbox"/> 決まっている (平成 年度まで) <input checked="" type="checkbox"/> 決まっていない		予算科目	区分		一般会計	
担当部	経済環境部	担当課	商工観光課		担当係	商工 係		作成者	直井 道正	内線(電話番号)	2430		シート作成日
位置付けられている計画等	<input checked="" type="checkbox"/> じょうそう未来創生プラン前期基本計画 <input type="checkbox"/> 市長マニフェスト「常総創生への道しるべ」 <input checked="" type="checkbox"/> 常総市復興計画 <input type="checkbox"/> 市民等からの要望 <input checked="" type="checkbox"/> 常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略 <input type="checkbox"/> その他の計画 (名称 :)				根拠法令及び市条例等	<input type="checkbox"/> 国の定める法律 (名称 :) <input type="checkbox"/> 国・県からの通達等 (名称 :) <input type="checkbox"/> 市の条令・要綱・規則等 (名称 :)							

2 事務事業の目的 ☞ 当該事業を実施することで、①「望ましい状態」とはどのような状態か? → ②一方で、「現状や課題」はどうか? → ③そのためには何をすべきか? という過程で考えていただいても結構です。															
現状課題	【現状】商店街ではシャッターを閉めた店が目立ち、人の通りも少ない。 【課題】お店の魅力を伝える周知方法や市民の広場の有効利用による各店舗への波及効果の検討				誰・何を対象に	商店街を活性化しようとする団体及び空き店舗を活用する個人事業主等に対し、事業費及び必要経費の一部を補助する。				望ましい状態	・今ある店舗の集客増 ・空き店舗を活用して、新たに事業を始める人の獲得 ⇒賑わいのある商店街				
どのよう方法・手順で	事業のPRを行い、多くの人に利用してもらう														

3 事務事業の主たる成果指標 ☞ 数値目標(定量)の設定が困難な場合は、文言目標(定性)でも結構です。なお、指標名・目標値とも設定が困難な事業は空欄でも結構ですが、この場合、設定できない理由を分かりやすく・具体的に記入してください。														
指標名	空き店舗利用者数		単位	人		目標値	10		目標年次	平成 32 年度		指標及び目標値設定の考え方(又は指標・目標値を設定できない場合の理由)	空き店舗調査の結果、貸出可能店舗数が15件であった。その内相当の改修費を要する物件(5件)を除いた物件数。	

4 事務事業の実績 ⑩ ☞ 当該事業の予算を使って、『どのような業務をどの程度実施したか。』を記入してください。なお、業務が12個以上ある場合、代表的なものを最大12個記入してください。																		
年度	平成27年度				平成28年度				平成29年度									
	業務名			活動量	業務名			活動量	業務名			活動量						
事務事業を構成する主な業務	① 補助金申請書類の受理から実績報告までの業務				6回	① 補助金申請書類の受理から実績報告までの業務				6回	① 補助金申請書類の受理から実績報告までの業務				9回			
	② 商店街空き店舗調査の実施				250店舗	② 商店街空き店舗調査の実施				250店舗	② 商店街空き店舗調査の実施				250店舗			
	③ 賑わい再生のための活動費の交付				2回	③ コミュニティー事業における会議				15回	③ コミュニティー事業における会議				25回			
	④					④ 先進地研修				2回	④ 先進地研修				1回			
	⑤					⑤ 賑わい再生のための活動費の交付				2回	⑤ 石下地区健康体操教室の開催				7回			
	⑥					⑥					⑥ 水海道地区イベントの開催				2回			
	⑦					⑦					⑦ 常総いいあんばい瓦版の発行				4回			
	⑧					⑧					⑧ 賑わい再生のための活動費の交付				2回			
	⑨					⑨					⑨							
	⑩					⑩					⑩							
	⑪					⑪					⑪							
	⑫					⑫					⑫							
目標値に対する実績値				1 人		目標値に対する実績値				1 人		目標値に対する実績値				7 人		
決算額	計	1,854,388 円	内訳	特定財源	0 円		一般財源	1,854,388 円		計	4,750,430 円	内訳	特定財源	1,896,000 円		一般財源	2,854,430 円	
	(住民一人あたりの行政コスト)				30 円		(住民一人あたりの行政コスト)				78 円		(住民一人あたりの行政コスト)				112 円	

5 担当者評価 ⑪ ☞ 実施したことによる成果や問題点を記入してください。														
成果	目標どおり		成果内容	・商店街の魅力を伝える「常総いいあんばい瓦版」を発行 ・市民の広場活用促進協議会を発足し、商店街の活性化を図るため行政主導ではなく、伴走型支援の体制づくりを行った。 ・空き店舗調査により今後の店舗利用について意向を調査を実施していたため、情報提供により2件が起業に結びついた。										
問題点	空き店舗の多くが店舗兼住宅となっているため店舗だけを貸すことに所有者は難色を示している。													

6 担当部長及び担当課長評価 ⑫ ☞ 担当部長・課長で協議のうえ、評価してください。													
事務事業の方向性													
<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現行どおり <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止・廃止													
評価理由	商店街の活性化は非常に重要な課題であり、今までも様々な事業を展開するも、なかなか商店街の活性化につながっていないが、現在新たな問題として、商店の後継者問題や商店による高齢者買物難民対策など、今後も、市・県の補助事業の展開や、空き店舗補助事業の内容見直しを図るなど、積極的に事業を展開する必要がある。												

7 実施計画 ⑬ ☞ 今後3年間の事業内容について、どのようなことを実施していくつもりなのか、具体的に記入してください。なお、予算額の『歳出の計』と『歳入の計』は一致させてください。																
年度	平成30年度				平成31年度				平成32年度							
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●商店街コミュニティ事業会議の開催 ・水海道地区、石下地区それぞれに適した事業をおこなうため、両地区で商店主を対象とした会議を開催し、商店会の活性化に繋げる。 ・常総いいあんばい瓦版の作成に関して、30年度より両地区の内容を掲載する方針になったため、両地区の商店主を招集し、定期的な会議を開催し、瓦版の掲載内容について協議する。 ●石下地区空き店舗活用事業 ・石下中央商店会内にある、空き店舗を活用し、石下地区のコミュニティスペースを設置する。 ●水海道地区イベント事業 ・水海道地区駅通りサービス会において、イベント(懐かシネマ)を開催。 ●空き店舗調査の実施 ・両地区の中心市街地において、空き店舗数と営業店舗数の把握をし、空き店舗に関しては、商店主に貸出の意向調査実施し、新規起業者に情報提供する。 ●補助金の受理 ・空き店舗活用事業支援費補助金、中心市街地活性化支援費補助金、街路灯管理費負担金における実績報告までの業務。 ●報償費の支払い ・両地区において開催される、朝市、夕市の協力者に謝礼を支払う。 ●市民の広場の活用及び活用促進協議会の運営 ・市民の広場の定期的な活用(月一回以上)と、仮設トイレおよび広場の清掃をおこなう。 				<ul style="list-style-type: none"> ●商店街コミュニティ事業会議の開催 ・水海道地区、石下地区それぞれに適した事業をおこなうため、両地区で商店主を対象とした会議を開催し、商店会の活性化に繋げる。 ・常総いいあんばい瓦版の作成に関して、30年度より両地区の内容を掲載する方針になったため、両地区の商店主を招集し、定期的な会議を開催し、瓦版の掲載内容について協議する。 ・関東・東北豪雨被災中小企業支援費補助金を市予算と並行して活用し、当事業を継続する。 ●空き店舗調査の実施 ・両地区の中心市街地において、空き店舗数と営業店舗数の把握をし、空き店舗に関しては、商店主に貸出の意向調査実施し、新規起業者に情報提供する。 ●補助金の受理 ・空き店舗活用事業支援費補助金、中心市街地活性化支援費補助金、街路灯管理費負担金それぞれの活用者の申請受理をする。 ●報償費の支払い ・両地区において開催される、朝市、夕市の協力者に謝礼を支払う。 ●市民の広場の活用及び活用促進協議会の運営 ・市民の広場の定期的な活用(月一回以上)と、仮設トイレおよび広場の清掃をおこなう。 				<ul style="list-style-type: none"> ●商店街コミュニティ事業会議の開催 ・水海道地区、石下地区それぞれに適した事業をおこなうため、両地区で商店主を対象とした会議を開催し、商店会の活性化に繋げる。 ・常総いいあんばい瓦版の作成に関して、30年度より両地区の内容を掲載する方針になったため、両地区の商店主を招集し、定期的な会議を開催し、瓦版の掲載内容について協議する。 ・関東・東北豪雨被災中小企業支援費補助金を市予算と並行して活用し、当事業を継続する。 ●空き店舗調査の実施 ・両地区の中心市街地において、空き店舗数と営業店舗数の把握をし、空き店舗に関しては、商店主に貸出の意向調査実施し、新規起業者に情報提供する。 ●補助金の受理 ・空き店舗活用事業支援費補助金、中心市街地活性化支援費補助金、街路灯管理費負担金それぞれの活用者の申請受理をする。 ●報償費の支払い ・両地区において開催される、朝市、夕市の協力者に謝礼を支払う。 ●市民の広場の活用及び活用促進協議会の運営 ・市民の広場の定期的な活用(月一回以上)と、仮設トイレおよび広場の清掃をおこなう。 							
	予算額	歳出	計		11,655 千円		歳出	計		8,401 千円		歳出	計		8,401 千円	
		歳入	特定財源		3,000 千円		特定財源		0 千円		特定財源		0 千円			
			一般財源		8,655 千円		一般財源		8,401 千円		一般財源		8,401 千円			
			計		11,655 千円		計		8,401 千円		計		8,401 千円			

8 財務アドバイザーの見解													
『常総市財政健全化計画』では、平成29～31年度までの3年間で約20億円の財源不足が生じる可能性が指摘されている。この厳しい財政状況を鑑み、本事務事業は平成31年度の当初予算の要求において、その一般財源金額については平成30年度の一般財源予算額以下の金額以下を予算要求を行うべきである。当該金額の枠内で最大の効果を発揮する、市民目線の筋肉質な事務事業の計画と実行を期待する。													

9 行政改革懇談会(市民)の意見													
事務事業の方向性は「現行どおり」でよいと考えられるため、担当部長及び担当課長評価を再考していただきたい。なぜなら、商店街の活性化に長年公費を費やしているにも関わらず商店街にまったく変化が見られないからである。なぜ商店街が活性化されないのか、まずは市としてその原因を探るべきである。原因を究明したうえでどのような対策をするべきか、そのためにはどの程度予算が必要か、まずはこれを検証することが重要である。いずれにしても、商店街の方々積極的に前進しようとしなければ、いくら行政が公費をつぎ込んで成果は期待できないと思われる。													

10 最終評価(行政改革推進本部) ⑭													
事務事業の方向性													
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現行どおり <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止・廃止													
評価理由	空き店舗や市民の広場を有効活用できるよう、水海道、石下地区を活性化するため、商店街の方々自主的に商店街コミュニティ事業を展開できるよう推進し、今後も、市・県の補助事業の活用促進や空き店舗の利用促進を図るなど、積極的な住民参加型の事業を展開する必要がある。												

11 事務事業の改善理由 ⑮ ☞ 実施計画のみ作成する場合の拡充・縮小・休止廃止部分もこの欄に記入してください。													
事業内容	商店街の方々のコミュニティを強化し、賑わい創出の効果が高い継続性のあるイベントに対する補助を拡充(単発事業・・・1件→2件。継続事業・・・2件→3件、上限30万円→60万円)。常総いいあんばい瓦版の発行について、自主運営ができるようになるまでの間は補助を行い、発行を継続する。												